# CONSERVATION VOLUNTEERS Vol. 16

発行：特定非営利活動法人日本環境保全ボランティアネットワーク（略称：ＪＣＶＮ）


特集____ 豪雨災害後の農地復旧ボランティア特集 p1
報告____ 今後の活動予定、山都町支援とCVIの試行 p6
総会報告 p7
お知らせ p8


## 特集　豪雨災害後の農地復旧ボランティア

### ■平成 29 年九州北部豪雨を受けて

**朝廣和夫　（九州大学芸術工学研究院環境デザイン部門、JCVN理事長）**

平成29年7月5日、福岡県の朝倉市、東峰村、そして大分県の方面で豪雨災害がありました。平成24年7月の九州北部豪雨から５年、熊本地震からの復興もままならないタイミングです。一日の降雨量は1000mmを超す箇所も観測されており、これまで例を見ない雨量であり、災害状況と言われています。詳細は、まだまだ、これからの調査で徐々に明らかになってくることと思われます。本誌では、朝廣が被災地を訪れた所感を述べ、今後の団体の活動の方向性について触れたいと思います。

◇朝倉市黒川地区・佐田地区

7月28日、K氏の案内で朝倉市黒川地区、佐田地区を訪ねました。黒川は道路が崩壊しているため、川底の工事用道路を走ることになり、災害ボランティアの派遣も行われていません。K氏のご自宅は、NPOの方の手を借りながら少しずつ泥出しをされている状況でした。黒川地区の主な田んぼは、川と道路の間にあるため、多くの水田が浸食、土砂の堆積を受け失われていました。残された田んぼにも、土砂が流れ込んでいる状況です。

黒川地区の河川沿いの被災風景

佐田地区の公民館長とお話をさせていただいたところ、「農地がなければ戻る意味がない。」と言われ、今後、住民の方々と方針を検討されるよ

うです。当面、8月からナシの収穫作業が始まります。仮設道路の開通を急ぐよう依頼されており、必要があれば、農業支援のボランティアの利用の検討を依頼しました。山林は、川沿いの浸食による崩壊が目につきましたが、短い斜面でも崩壊が見られました。今後、定住可能地の検討、地域の将来像を検討し、人口が減少するとしても居住と生活を考えることが重要と思われます。農地復旧等のボランティア活動は、その一助となり、実施の検討が課題です。

◇朝倉市杷木の赤谷川、東峰村の棚田

赤谷川扇状地の堆砂の量は、報道されているようにすさまじく、今後の二次災害を防ぐ対応が早急に必要な状況です。被災を免れた果樹園、土砂の入った農地が川沿いに散見されました。土砂の多くは風化した花崗岩から流れ出たもので、堆砂の多さは、この地域の特徴と言えます。

朝倉市赤谷川の扇状地の被災風景

東峰村は、地域づくりの拠点であった、ほうしゅ楽舎が大きな土砂災害を受け、親水公園前後の河川沿いの河川被害、さらに人命が失われた土石流派生箇所が続きます。胸が痛みました。岩屋神社を越え、竹地区に入ると、整然とした棚田が現れました。この谷は、砂防ダムが機能し、また、畦のモルタルも功を奏したと見受けられました。室町時代から続く集落は、実に強靭な集落ではないかと考えさせられました。

今後、川沿いは、河川の拡幅なども検討されると思われます。一方で、農地の復旧は議論の必要なことと思われます。昔から、災害のたびに、崩積地には棚田を、扇状地には農地を先達は開いてきました。国土の強靭化とは、災害が起きても、速やかに復旧できる水田をつくることではないでしょうか。総合的な議論と判断が必要と思われます。

ほうしゅ楽舎

土石流被災地

## ■平成 24 年 7 月九州北部豪雨の知見を山都町の復興へ

**朝廣和夫　（九州大学芸術工学研究院環境デザイン部門、JCVN 理事長）**

JCVN はこれまで、里地・里山保全のボランティア活動に関与してきました。本誌に目を通していただいている皆様の活動においても、街の人を巻き込みながら、普段は訪ねることの少ない農地や森林で、農作業や森の手入れ、生き物観察など、様々な活動を安全に楽しく実施されていることと推察いたします。この安全で楽しい活動の基盤は、街の人と田舎の人が共同できるように、リーダーやコーディネイターが事前調整、安全管理、道具や資材の準備、当日のメリハリの利いた運営が行われるからです。培われた知識、技術、準備された装備や施設、構築された組織や協力者との連携が必要とされます。

約５年前に発災した平成24年７月九州北部豪雨では、NPO 法人山村塾が中心となり農地等の復旧ボランティア活動が展開しました。普段の里地・里山保全活動が災害の備えとなることが示されています。

さて、2016 年４月に発災した熊本地震。被災した熊本城、多くの建物が倒壊した益城町、西原村の映像は皆様の記憶に新しいと思います。被災自治体の中には、あまり報道がされていない被害もあるようです。その一つが、山都町の棚田です。この地域では、地震後に田植えが終了した 6 月 20～21 日未明にかけて豪雨に見舞われました。地震で傷んだ箇所に水が入り、町が把握するだけで 3000 ヶ所以上の棚田が崩壊したと言われています。地元の農家の落胆、将来に対する危機感は大きなものだったと思われます。

この状況を受け、５年前の水害の経験を、山都町の復興に活かそうと様々な人々が、連携を重ね農地・農業用施設の復旧活動を開始しました。本号は、その一部を特集としてご紹介し、今後の JCVN の活動の方向性を感じ取っていただきたいと考えおります

# ■棚田等の農地・農業施設の共助による復旧支援の必要性

**朝廣和夫　（九州大学芸術工学研究院環境デザイン部門、JCVN理事長）**

◇棚田の保全と災害

アジアに広がる棚田、共通なのは雨に恵まれていることです。水を張った棚田の連なりは美しいです。一方、大雨や豪雨、台風による水害、土砂災害も伴います。災害時、棚田は実に有能です。降った雨を水平に広げながら受け流し、山から崩れた土砂を棚田が受け止めます。棚田の下段に位置する集落や家々を守り、被害を軽減してきました。災害の度に人々は石を積み、土羽を均し、畦や水路を作り直してきました。そのような営みが、現在の棚田景観を形成したと言えます。

会誌なので最新の情報をご紹介すると、下記は平成29年7月5日の九州北部豪雨の被災地である東峰村の竹地区の写真です。この隣の集落の谷は土石流で 3 名の死者が出ており、大きな被害を受けました。竹地区は、なんとか砂防ダムが機能し、棚田の畦をモルタルで補強していました。豪雨時は滝のように水が流れていたそうですが、結果的に被害は軽減されたと見受けられました。室町時代から続く、この最奥の山村は、下流の被災地と比較し災害に対し強靭な条件を有していたのかもしれません。

平成29年7月九州北部豪雨の被災を受けた東峰村の竹地区（2017年7月31日撮影）

◇平時の備えと災害対応への課題

これらの農村の多くは、長年、高齢化・過疎化が進み山村・農地の保全は大変、厳しい状況にあります。そのような山村で豪雨災害が頻発しており、今後も、度々起こると想定されます。災害後の農地復旧は、自力復旧を行うか、もしくは、40万以上は国の補助事業、自治体によっては50万以下の市の単独事業などを用いることができます。しかしながら、経済状況と農家の年齢、遅れがちな復旧工事の関係から困難を極めます。災害時に設置される社会福祉協議会の災害ボランティアセンターは生活支援を対象とするため、農地へのボランティア派遣は行いません。今後の災害を考えると、農地復旧ボランティアの仕組みづくりが大きな課題と考えます。

◇熊本地震における農ボラの展開

平成28年4月の熊本地震では、西原村で同5月に農業復興ボランティアセンター（現在の西原村百姓応援団）の活動が展開されています。村の社会福祉協議会が設置した災害ボランティアセンターに、甘藷を生産する農家から、5月中に作付けを済ませるため農業支援が必要と多くの声が寄せられたそうです。社協は柔軟な判断を行い、日田市の地域おこし支援員の経験を持つ河井昌猛氏に委ね、社協はニーズ調査と保険等の部分の協力にとどめ、受付派遣業務を切り離すことで実現されています。

この成果を受け熊本大学名誉教授の徳野貞雄氏（農村計画学）は、新潟県中越地震後の復興に貢献した中間支援組織「中越復興市民会議」の取り組みを参考に、2016年7月に、農村部の声を行政に橋渡しすることを目的に、「ふるさと発復興会議」を設立し、同8月に御船町、10月に山都町で実施し、様々な農村部の声を共有されてきました。

◇山都町から共助による農地復旧の声

巻頭で述べた 6 月の豪雨を受け、地元の下田美鈴氏は、2016年10月に行われたふるさと発復興会議で「地区の平均年齢は70歳を超え、自助復旧 は無理」。訴えられました。この声を受けて、山都町における農地復旧等の災害ボランティア活動の模索と展開に繋がりました。

# ■山都町棚田復興プロジェクト参加報告

**小森　耕太　（JCVN副理事長、NPO法人山村塾事務局長）**

山都町の美しい棚田は、1854 年、布田保之助が村人とともに通潤橋を築いて白糸台地に通水して以来、育まれてきたものです。自然と調和したその仕組みは多様な生き物を育み、その価値は「通潤用水と白糸台地の棚田景観」として文化庁に重要文化的景観として選定を受けています。しかし、その棚田景観は、平成 28 年 4 月熊本地震と 6 月豪雨災害により農地や農業用施設に甚大な被害を受けました。地震後の片付けが終わり、なんとか田植えを終えた矢先の豪雨だったそうです。

ＪＣＶＮでは、一般社団法人ふるさと発・復興志民会議の徳野先生（熊本大学名誉教授）や西原村百笑応援団の河井さんらと連携して昨年より準備を進め、今年 3 月から具体的な棚田再生の実践活動がスタートしました。以下に初回の取り組みを報告します。

◇棚田再生ボランティア　第 1 回
とき：2017 年 3 月 11 日（土）～12 日（日）
ところ：熊本県山都町白糸地区
参加者：30 名程度、地元の運営関係者約 10 名
内容：3/11（土）棚田の土羽復旧（しがら組み）、泥広げ、石拾い、谷川の土砂あげ、3/12（日）地元水利組合と一緒に用水路の泥上げ作業

3 月 11 日、午前中は棚田の土羽が崩落した現場にて 2 班に分かれ、しがら組みと泥広げを行いました。しがら組は切り出された竹を竹割り器で割り、土羽の際に棒杭を打ち込み、割った竹をジグザグに編み込んでいきます。これ以上、泥が流入しないための仮復旧の作業です。地元の農家さんに指導を受けながら竹を割ったり編んだりする作業が面白く、大人気でした。別の班は、地権者により土砂はあらかた集積されていた泥を田んぼに均等に広げていく作業。泥の中に混じっている石を選り外しながら、剣スコップやカキイタ、ショウケを使って均しました。足腰にくる力仕事です。昼食は犬飼公民館にて、地元の方々に炊き出ししていただきました。季節の山菜や汁物、棚田米のごはん、漬物とついつい食べ過ぎてしまいます。午後からは別の現場にて 2 班に分かれ、田んぼに流入した土砂の片づけと谷川に堆積した土砂を撤去する作業を行いました。

3 月 12 日は地元 100 名ほどの井手さらい共同作業に合流しました。午前中は上井手と下井手の 2 班に分かれ、水路に堆積した泥を剣スコップでかき上げます。午後は各集落に分散し、同じく水路の泥上げ作業。午前も午後もひたすらこの作業が続く訳ですが、地元の方々はさすが 120 年の伝統を受け継いできた方々で疲れ知らず。水路の中で隊列を作って歩いていきますので、ついつい頑張りすぎてしまい、久々にばててしまいました。

活動終了時の振り返りでは、参加された方々から「こんなにも美しい景色の中で汗を流せて気持ちよかった」、「ごはんが美味しくてたまらない」、「地元の農家さんの話がすごく面白かった。ファンになっちゃった」とお話いただきました。充実した 2 日間だったようです。

山都町棚田復興プロジェクト代表の下田美鈴さんが、「活動前の地域の印象は、『ボランティアにそんな仕事ができるわけがない』、『世話する方が大変じゃないか』などと否定的な意見が多かった。でも、水路の泥上げ作業が終わった後は、『ボランティアさんがこんなに働き者とは知らんかった』、『みんな笑顔で一所懸命作業してくれて助かった』、『また来年も来てもらえるとやろ？』と打って変わってボランティア推進派になったんよ～」と語ってくれました。ＪＣＶＮとしてプロジェクトの立ち上げに協力できたこと、うれしく思います。

山都町棚田復興プロジェクトでは、この後も継続して活動を実施しています。夏場は農地復旧ができないため、草刈りの応援などが中心ですが、収穫が終わる 11 月以降からは農地復旧の活動を企画する予定です。皆様のご参加お待ちしております！

井手の泥上げ作業

## ■NPOと造園業による「熊本被災地ボランティア」

**志賀　壮史（JCVN理事、NPO法人グリーンシティ福岡理事）**

山都町棚田復興プロジェクトの皆さんとの連携がきっかけとなり、NPO 法人グリーンシティ福岡と（一社）福岡市造園建設業協会の共催で、下記のボランティア活動を実施しました。

と　き：2017 年 6 月 11 日 8:30-15:00
ところ：熊本県山都町・通潤用水周辺
参加者：造園業 15 名／NPO 3 名
内　容：地元水利組合と一緒に、通潤橋周辺の用水路のべ 11km の草刈り。

6 月 11 日は年２回行っている地元水利組合の共同作業の日でした。地震の影響もあり棚田を守る担い手が減少していく中で、160 年以上続いてきた用水路の管理作業も徐々に大変になってきているとのこと。この日は約 30 名の地元農家の皆さんに合流するかたちで、刈払機を持参した造園業者 15 名と連絡調整役としての NPO スタッフ３名が参加しました。

午前は、緑川の支流である笹原川からの取水口を起点に、円形分水やいくつかの隧道を経て通潤橋に至る用水本線の約 6km。午後は、通潤橋より下流の支線を 3 班に分かれて合計 5km 程度。延べ約 11km の草刈りとみぞさらいを行いました。

井手の草刈り風景

日々、仕事として草刈りを行なっている造園業の皆さんだけにみるみる作業が進み、いつもよりかなり早く終わったとのこと。地元農家の皆さんにも大変喜んでいただきました。

今後の改善に向けて、活動の運営面で気づいた点をいくつか挙げておきます。

・長距離を移動する活動では、ボランティア同士が離れ離れになりがち。連絡役を複数名と車両を確保、連絡役は携帯番号を交換し、全員が飲料水や救急セットを持つこと。
・広範囲の作業地は、担当区域を分担すると効率的。しかし、手順を急には変えられない or 外部の人には任せにくい等の事情もあるので、地元の気持ちや考えに沿うこと。
・造園業の皆さんは、他のボランティアと作業スピードややり方が違う場合がある。互いの安全のため、距離をとったり、事前に注意する等の工夫があるとよい。
・活動内容の「学び」、「交流」、「作業成果」のバランス。造園業の皆さんには一般ボランティアに比べて「作業成果」を重視した活動の方が本領を発揮できる。

NPO 法人グリーンシティ福岡と（一社）福岡市造園建設業協会は、福岡市内の志賀島や奈多松原で、８年以上一緒に環境保全活動に取り組んできました。造園業の皆さんは緑や自然を愛し、里山保全や被災地支援にも「なんとかしたい！」という思いを持つ方が大勢います。今後もよい連携を続けていけたらと思います。

活動後の集合写真

# 報告　今後の活動予定

## ■「熊本地震被害を受けた山都町の棚田再生」（平成 29 年度ふくおか地域貢献活動サポート事業）で目指すこと

**小森　耕太（JCVN 副理事長、NPO 法人山村塾事務局長）**

ＪＣＶＮでは、熊本地震に被害を受けた熊本県山都町の棚田再生を支援することを目指し、一般社団法人ふるさと発・復興志民会議（代表理事 徳野貞雄氏）と共に協議会「熊本地震からの農村復興を支援する会」を設立しました。この協議会を通じて、福岡県が行う平成 29 年度ふくおか地域貢献活動サポート事業に応募し、補助額 750,000 円にて補助事業として採択いただきました。

補助事業では、山都町白糸台地の棚田と水路の再生と維持管理を行うボランティア事業を整備することを目指します。具体的には、山都町棚田復興プロジェクトと連携し、棚田や水路の復旧といった農地復旧ボランティア活動の実践を行うと共に、今後に向けての検討会議や安全管理などの研修会により体制整備や人材育成の支援を行います。

ＪＣＶＮはこれまでに、環境保全活動の現場コーディネートをできる人材育成に取り組んできました。そういった仕組みは環境保全を推進するだけでなく災害時の支援活動にも応用されました。平成 24 年 7 月九州北部豪雨災害における八女での山村塾の取り組み、平成 27 年 9 月関東・東北豪雨における栃木県でのトチギ環境未来基地の取り組みなどです。これらの経験やノウハウを山都町の棚田再生に役立て、山都町の棚田再生を後押ししたいと思います。

通潤橋と白糸台地の棚田

## ■環境保全ボランティアリーダー研修プログラムを検討します CVI：Conservation Volunteer Institute

**朝廣和夫　（九州大学芸術工学研究院環境デザイン部門、JCVN理事長）**

JCVNでは6月の理事会において、普段の環境保全活動を災害支援に繋ぐには、各団体と連携しサービスの提供できる人材育成の必要があると議論しました。本誌面で紹介した状況を受け、今年度、緑のボラと災害ボラを行き来できる方々を見出すため、CVI（Conservation Volunteer Institute）として環境保全ボランティアリーダー研修プログラム（案）の試行を行います。

運営体制は、共通科目をJCVNが、専門科目を各団体が担い、共通科目を5日、専門科目は各団体の講座を利用し、インターンを5日とし、修了証を出すことを考えています。共通科目は、コミュニケーションスキル、安全管理、環境・災害ボランティア等とし、修了後は緑の災害ボランティアとして活動を展開できる基礎的能力の提供を念頭においています。専門はコース制とし、●里山保全コース、●ファシリテーションコース、そして、●コンポスト・菜園コースが現在の検討案です。インターンシップは、それぞれ、NPO法人山村塾、NPO法人グリーンシティ福岡、そして、NPO法人循環生活研究所での実務体験を行い、各団体と連携できる場を確保します。これは、一見うち向けに見えますが、確かな連携活動を広げるには、連携のできる仕組みと、活動できる場を創出することが大切です。今後とも、よろしくお願いします。

# 総会のご報告

## ■第９回総会のご報告

**志賀　壮史（JCVN 理事、NPO 法人グリーンシティ福岡理事）**

去る平成２９年５月１８日、特定非営利活動法人日本環境保全ボランティアネットワークの第９回目となる通常総会が行われました。

以下の通り、その議事をご報告いたします。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

１.開催日時　平成２９年５月１８日
　　１７：００～１９：００

２.開催場所　九州大学大橋キャンパス２号館
4F アカデミックコア（福岡市南区塩原 4-9-1）

３.正会員総数 14 名、出席した正会員数８名
（本人出席７名、表決委任者１名）

４.審議事項
第１号議案　平成２８年度事業報告について
第２号議案　平成２８年度決算報告について
第３号議案　主たる事務所の変更について
第４号議案　定款変更について
第５号議案　平成２９年度事業計画について
第６号議案　平成２９年度予算計画について

５.議長選任の経過

定刻になり理事長 朝廣和夫より開会が宣言された。引き続き、各理事の出席への謝辞と各議案への検討をお願いする旨の挨拶があった。

また定款２７条により、本日の出席者７名、委任状による出席者１名、計８名は当団体正会員数１４名の５分の１を超えており、本総会は成立しているとの報告があった。続いて定款第２６条に従い、副理事長 小森耕太が議長に満場一致で選任され、下記議案につき審議した。

６.議事の経過の要領及び議案別決議の結果

＜第１号議案及び第２号議案について＞

資料をもとに平成２８年度の事業報告および決算報告がなされた。続いて監事 原愛子が監査報告を行なった。第１号議案に関し、議長より平成２８年度の５）講師派遣事業について実態に基づき派遣回数を２回から６回へ、同じく参加者人数を２６人から７５人へ、修正することへの意見を募ったところ、問題は挙げられず承認された。以上の内容を受けて第１号及び第２号議案について採決を行ったところ、全員一致で承認された。

＜第３号議案について＞

議長から、前理事長重松敏則の死去と朝廣和夫の新理事長就任に伴い、主たる事務所の所在地変更について、旧事業所:福岡県糟屋郡志免町桜丘３丁目３２番１号から、新事務所:福岡県糸島市井原１３７５番地１への変更説明があった。採決の結果、全員一致で承認された。

＜第４号議案について＞

議長から定款変更について、第２条(事務所)の変更案:「この法人は、主たる事務所を福岡県糸島市に置く。」および、第５５条(公告の方法)の変更案:「この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに官報に掲載して行う。ただし、法第２８条の２第１項に規定する貸借対照表の公告については、電子公告にて行う。」、また第４条(特定非営利活動の種類)の追加項目:「５．災害救援活動」、さらに第５条(事業)の追加項目:「⑥災害時の被災者の救援や生活支援及び復興事業」についての説明があった。質問・意見を求めたところ、問題は挙げられず、採決の結果、全員一致で承認された。

＜第５号議案及び第６号議案について＞

資料をもとに、平成２９年度事業計画及び予算計画の説明がなされた。意見交換では、事業計画に「７熊本地震の被害を受けた棚田復興支援」を追加すること、予算計画では計画段階の経常収支はゼロにすべきとの意見、更に「地域貢献活動サポート事業」は当法人の主たる継続的活動には該当しないため削除すべき等の意見が出された。これに伴い事業計画及び予算計画を一部修正した上で、採決を行ったところ全員一致で承認された。

７.議事録署名人の選任に関する事項

議長より議事録署名人について諮ったところ朝廣和夫氏と平由以子氏が推薦・承認された。

議長は、以上をもって本日の議案の審議を全て終了した旨を述べ、閉会を宣した。

## お知らせ

*イベント・ボランティア情報*

### ●「熊本地震被害を受けた山都町の棚田再生」平成29年度ふくおか地域貢献活動サポート事業

福岡県のサポート事業として JCVN は下記の予定で熊本県山都町の棚田復旧支援活動の準備を進めています。下記は予定ですが、活動等にご協力・ご参加いただける方はスケジュールを参考にしていただき、最新の情報は Facebook などでご確認いただきたくお願いいたします。

**◇8/26（土）～27（日）草刈りボランティアと井手草切りと草片付け**

土曜日にボランティアグループで草刈りを実施し、日曜日は地元水利組合と共同で行います。宿泊可能な方は公民館の使用も調整します。

**◇9/23（土）、10/1（日）草刈りボランティア**

**◇11/23（木祝）白糸地区収穫祭**

**◇12～1 月　検討会議**

**◇3/10（土）～11（日）棚田再生ボランティアと井手さらい**

土曜日にボランティアグループで棚田再生を実施し、日曜日は地元水利組合と井出浚いを共同で行います。宿泊可能な方は公民館の使用も調整します。

### ●　関連イベントの告知
### 「サイクリスト・クリーンデイ４」

博多湾と玄界灘の絶景が楽しめる志賀島。潮見公園展望台までのサイクリングルートを安全に気持ちよく走ることができるよう、沿線の樹木の間伐や枝払いを行います。　自転車好き＆志賀島好きのみなさん、ぜひどうぞ！

日　時：平成29年9月2日（土）9:30～12:00
集　合：志賀海神社駐車場（9:30）
参加費：無料（地元食堂のお弁当付き）
準　備：長袖長ズボンの汚れてもよい服装、タオル、飲み物
保　険：グリーンボランティア保険に加入します。
主　催：志賀島-海の中道サイクルツーリズム協議会
共　催：NPO法人グリーンシティ福岡
申込み：電話・ファクス　092-215-3913
　　メール：info@greencity-f.org

### ●JCVNの仲間を広く募集しています！

あなたの支援が、「いつでも」「どこでも」「だれでも」できる環境保全活動をめざした団体のネットワークづくりの力になります。入会申込書をご送付いたしますので、事務局までお問い合わせください。

JCVN理事をはじめ、環境保全活動の専門家のノウハウが詰まった会報が、年に3回お手元に届きます！また、メーリングリストでもJCVNが開催・協力するイベント情報等を随時ご案内いたします。

活動への寄付も受け付けています。環境保全団体のネットワークづくり、リーダー育成支援のため、皆さまのご協力をお待ちしています！

・個人正会員（¥10,000／年）
・個人賛助会員（¥5,000／一口以上）
・団体正会員（¥20,000／年）
・団体賛助会員（¥10,000／一口以上）

［会費・寄付振込口座］

番号：０１７６０－９－１２２４０７

名称：日本環境保全ボランティアネットワーク

CONSERVATION VOLUNTEERS　１６
■発行日：平成２９年８月１７日
■発行頻度：年3回
■発行：特定非営利活動法人日本環境保全ボランティアネットワーク（略称：ＪＣＶＮ）
■事務局：〒810-0022福岡市中央区薬院4-5-2-202
tel/fax: 092-215-3966
e-mail: jcvn@greencity-f.org